

埼玉県大学・短期大学図書館協議会第21回研修会 開催要項

埼玉県大学・短期大学図書館協議会

1 趣旨

本研修は、図書館施設の見学と講演を通じて日常業務等を比較検討する機会を作り、今後の業務への意欲を形成することを目的とする。

2 主催 埼玉県大学・短期大学図書館協議会

3 開催日 平成21年12月9日(水)

4 開催場所 埼玉大学理工学研究科棟(7階)大学院国際セミナー室

5 研修テーマ 「あらためて大学図書館のレファレンスを考える」

大学図書館は予算や人員削減、外部委託の導入により図書館運営が危機に晒されている。また、最近ではGoogleなどの検索エンジンの発展があり図書館のレファレンスの在り方が問われている。

一方、大学図書館は図書・雑誌の収集・提供からはじまり電子ジャーナル・学術データベースの提供へとサービスを拡大し、最近では機関リポジトリや研究業績データベースまで業容を拡大している。また、大学の存在感に関わる業務として地域貢献や大学記念館・室の運営なども担当し、大学図書館の役割は拡大している。

今般は、レファレンスを中心に選書、リテラシー教育など大学図書館のコアコンピタンス(Core competence)を考えることにより今後の大学図書館の在り方について探る。

6 研修日程

13:30-14:00 受付

14:00-14:10(10分) 挨拶

14:10-14:50(40分) 井上 真琴氏(同志社大学) 「レファレンス能力を高める“選書”という行為」

同志社大学図書館の資料収集体制は、①学習用図書費の予算基盤を確保していること、②資料や導入データベースの選択・評価は図書館員が行うこと、を特徴としてきた。

資料評価のフレームづくり、全点見計いによる選択作業は、単に選書眼を養うことにとどまらず、レファレンスや利用教育に役立つ図書館員の職能開発につながっている。

“選書”という行為を通じて、いかにして資料の専門家(資料紹介の専門家ではなく)を育成する仕掛けをつくるのか。実践例を紹介しながら、参加者と共に考えていきたい。

14:50-15:30(40分) 関口 千登世氏(城西大学 水田記念図書館) 「図書館ガイダンス事例報告」

城西大学水田記念図書館が実施している図書館ガイダンスについて、内容を紹介するとともに、ガイダンス・アンケートで得られた参加者の声をどのように活かしてきたかなどの見直しについても報告する。また、教員との連携や、地域との連携による新しい取り組みについても報告する。

15:30-15:40(10分) 休憩

15:40-16:20(40分) 米澤 誠氏(国立情報学研究所) 「あらためて大学図書館のレファレンスを考えるー問題提起にかえてー」

Googleに代表される検索エンジンや、電子ジャーナル・機関リポジトリなどの電子的情報資源が普及した現在、大学図書館が行ってきたレファレンスサービスの役割は、今後どのように変化していくのだろうか。大学図書館がなすべき学習支援機能という観点から、レファレンスサービスの将来像を論じてみたい。

16:20-17:00(40分) 全体討議 村田 輝氏(司会)・井上 真琴氏・関口 千登世氏・米澤 誠氏

17:15-19:00 意見交換会